

1 日 時 平成25年3月28日(木) 18:30~20:10

2 場 所 帯広市役所 10階 第5A会議室

3 議事概要

(1) 会長選出

会長には、金山委員、職務代理者には、小森委員が選出された。

(2) 報告事項 政策・施策評価を踏まえた平成25年度予算

【会長】

政策・施策評価を踏まえた平成25年度予算について、事務局から説明願いたい。

【事務局】

資料1、資料2に基づき説明

報告事項 第六期帯広市総合計画 平成25年度推進計画

(平成25年度~平成27年度)

【会長】

平成25年度推進計画の概要について、事務局から説明願いたい。

【事務局】

平成25年度推進計画を説明

【委員】

103ページの「総合的な交通体系の充実」に関連して、3つ意見を述べさせていただく。

1点目は交通の案内標識である。道東自動車道の利用者から、案内標識に沿って走っていると郊外に到着してしまうといった苦情が出ている。調べてみると、高速道路、高規格道路、国道、道道、市道、それぞれの案内標識の基準ルールが違う。現在、観光客など交流人口を増やそうと十勝全体で努力している中、観光客などにとって、わかりづらい状況となっている。十勝全体で案内標識のあり方を議論する場の設置も含めた取り組みを総合計画に盛り込んでいただきたい。

2点目は、とかち帯広空港である。空港の将来ビジョンが明確に示されていないため、ビジョンをどこでどのように示していくか検討いただきたい。

3点目は、公共交通政策である。帯広市においては、道路政策が主となっており、ソフト政策である公共交通政策が十分でないように感じられる。帯広市は、道路政策以外の交通施策をあまり多く持っておらず、施策を専門的に立案する部署がない。商工観光部でバス交通の活性化を進めているが、商業サイドの観点である。少子高

齡化や夫婦共働きが増えることにより、高齢者を送迎する担い手が少なくなっている。車の平均所有台数が減り、逆モータリゼーションが進行している。この傾向は今後さらに進むことが予想される。バス、タクシー、自家用車も含めた、将来に向けた交通政策を示す時だと思う。これに関連する政策をぜひ議論してもらいたいと思う。

【事務局】

総合計画策定審議会における論議とそうでない部分の論議もあると思う。ただし、帯広市のまちづくりに関わる大きな視点の論議であり、同じ課題認識を持っている。特に、案内標識については、普段十勝に住んでいると気づかない視点であり、十勝全体で観光客誘致を進めている中、必要な視点であると認識している。貴重なご意見をいただいたので、参考にしてまちづくりに役立てていきたい。

【委員】

施策 8-1-2「自治体経営の推進」において、成果指標による判定は「a」、市民実感度による判定は「c」であり、ここに生じているギャップが気になる。

【事務局】

成果指標、市民実感度による判定において、ギャップが生じている要因については、アンケートの内容や、成果指標の目標値のあり方など、様々な要因があるものと考えている。評価の精度をいかに高めていくか、アンケートのあり方も含めて、ご意見をいただきたい。

(3) 協議事項 平成 25 年度市民まちづくりアンケート (案)

【会長】

協議事項、平成 25 年度市民まちづくりアンケート (案) について、事務局から説明願いたい。

【事務局】

資料 3 及び資料 4、資料 3・4 (別紙) に基づき説明

【委員】

「(あまり) そう思わない」理由の追加質問について、ひとつの選択肢の中に個人の考え、行動に関することと、行政の取り組みに関することが混在している。これらを分けた方が、次のアクションにつなげやすいのではないかと思う。例えば、資料 3 の問 10-A「地震や水害など、災害への備えが整っている」の追加質問に「e. 自宅や避難所の耐震性が不安だから」とある。この理由を選択した人は、記入者本人、行政のどちらを意識して回答したのかわからない。

また、「市が取り組んでいる主な仕事」欄に「学校施設等の耐震化」が加わったのであれば、追加質問の「e. 自宅や避難所の耐震性が不安だから」に「学校施設」を

加えるべきである。

【事務局】

ご意見のとおり修正させていただく。

(「学校施設の耐震化」については、平成 25 年度中に小中学校の耐震化工事を終了する予定であり、平成 26 年度以降の事業の改善につながらないことから、追加質問は案のとおりとさせていただきます。)

【委員】

アンケートに回答した人の答えだけでは、正確な市民実感は得られないと感じている。答えてもらえない人から、どのようにして答えてもらうか、検討すべき。一人ひとり聞き取ることになるが、例えば、無作為に抽出して 10 件に直接伺うなど、市民との直接対話が必要だと思う。

【会長】

回収率が半分弱で、回答していない人がどういう考えでいるかを把握することは重要である。今まで把握できなかった何かが見つかるかもしれない。

【事務局】

このまちづくりアンケートだけでなく、様々なチャンネルを使って、市民意見を聞く機会を設けてきているところであるが、幅広い市民意見をどのように聞き取るかは、常に考えていかなければならない。回収率を高めていく課題もあるので、こういった手法がいいのか検討したい。具体的な方法は研究していくが、行政としては、幅広い市民意見を聞き取る努力を続けることが重要であると考えている。

【委員】

IT の時代に移行したことによって多くの情報が増え、興味、関心のない話は、右から左に聞き流されてしまう。おそらく、このアンケートもそのまま廃棄されているケースもあると思う。市の職員が訪問してアンケートのお願いをすれば、答えてくれるだろうし、行政の取り組みに対して関心をもってもらえると思う。

【委員】

質問の意味がわからない人や、情報が少ないからわからない人もいると思う。質問に対する答えとして、「わからない」の選択肢を設けるべき。先ほどの市民実感度とのギャップにも関係すると思うが、これまで曖昧なまま回答していた人が、明確に「わからない」を選択することになるので、より正確な実感度を把握することができると思う。ただし、「わからない」を選択する人が多くなり、過去の調査結果との比較が難しくなる課題はある。

アンケートに回答しなかった人への対応についてであるが、アンケートに回答しない理由を把握することは重要であり、次のアクションにつながっていくと思う。

【事務局】

「わからない」の選択肢を新設した場合、市民の実感度を把握することや、施策の取り組み方向を検討することが難しくなる。このため、質問の内容を理解した上で可能な限り回答いただけるよう、「市が取り組んでいる主な仕事」欄をわかりやすくしていくことが必要だと考えている。

また、様々な方法や場面で行政情報の提供を進めながら、アンケートに答えやすい環境をつくと同時に、帯広市のまちづくりに関心をもってもらう取り組みを進め、回収率の向上を図っていきたい。答えなかった人の意見の把握方法については、今後研究させていただきたい。

【委員】

自由記入欄について、どのくらいの人が記入しているのか。また、その意見をどのように分析しているのか。

【事務局】

平成 24 年度は、697 件の自由意見があった。分野ごとに分類した上で各部署に情報提供し、今後の取り組みの参考としている。また、施策評価の際も参考にしているところ。

【委員】

「わからない」を選択肢に加えるかどうかの議論について、「わからない」理由としては、利用したことがない、身近でない、情報が足りないなど、様々だと思う。わからない理由をさらに追加質問することによって、見えてくるものがあると思う。

【委員】

過去のアンケートでは、50 施策すべての市民実感度項目の問いに答える形式であった。その当時、選択肢に「わからない」があったと記憶している。しかし、「わからない」を選択する人が多くなることによって、「わからない」理由を把握する必要が生じ、また、「わからない」ままでは施策に反映しづらいといった意見があったため、選択肢から「わからない」を削除した経過があったと思う。

ところで、ひとり 25 施策ずつ、A 票、B 票に分けた後、回収率は上昇したのか。

【事務局】

平成 22 年度から A 票、B 票に分けて実施している。回収率の推移は、平成 20 年度は 37.6%、平成 21 年度は 39.8%、平成 22 年度は 45.0%、平成 23 年度は 45.8%となっている。回答しやすい内容へと工夫してきていることもあるが、質問数を減らして負担軽減したことが回収率の上昇につながったものと考えている。

【会長】

過去には選択肢に「わからない」があったが、評価する際に課題が生まれて削除し

たとのことであった。

【事務局】

以前は「わからない」ではなく、「どちらでもない」という選択肢があった。

審議会の中で、より明確な市民意見を把握すべきとの意見があり、選択肢から削除した経過があった。

「わからない」を選択されると、実感を正しく把握できない問題は生じるが、「わからない」と「どちらでもない」は意味が違うものであり、すべての質問を理解した上で回答する難しさもあることから、選択肢として「わからない」を追加する必要があるか検討の余地はあると考える。

【委員】

わからない場合の対処方法について、記入要領などに記載してはどうか。

【委員】

わからない理由を把握するために、追加質問を新設した方がいいと思う。回答項目が増えることにより回収率への影響が予想されるが、より深く分析できると思う。

【委員】

質問に関連する資料も同封しているのか。専門的な用語を理解できない人も多いと思う。

【事務局】

関連資料は送付していない。すべてではないが、専門用語は注釈をつけるなど工夫しているところ。今後とも改善できる部分は改善していきたい。

【委員】

こうしたアンケートは、答える日によって結果が数%変わってくると思う。

また、このアンケートは、毎年、同じ人に同じことを聞いていないため、ある程度容認した中で実施するべき。この形式で実施する意義は十分にあると思う。

【会長】

議論は尽きないが、質問の内容が本当にわからない人は、無回答になると思う。

すべて「わからない」を選択され、限られたサンプル数で実感を判断するよりも、「わからない」の選択肢を設けずに可能な限り質問に答えてもらう状況をつくっていくことが望ましい。

【委員】

定点で経年変化をみることができないため、この内容で継続性を持たせるしかないと思う。

【委員】

質問がわからない場合は、追加質問の「f.その他」を選択させるなど、記入要領で説明してもいい。

【委員】

「どうしてもわからない場合は、次の質問に進んでください」と記入要領で説明してもいい。わかる範囲でできるだけ回答してもらうことが必要である。

【会長】

わからないと感じていても、無理に答えてしまう可能性もある。

委員会の意見としては、アンケートの選択肢について修正の必要はないとの結論であるが、あとは事務局で記入要領などを整理していただきたい。

(4) その他

【事務局】

第六期帯広市総合計画の中間点検について、資料5に基づき情報提供を行った。

また、以下のことについて、事務局から情報提供した。

- ・今後の審議会開催日程
- ・事務局職員の人事異動

以上